

ハチは冬になると居なくなるのですか？

(公社)東京都ペストコントロール協会 理事 紅谷 一郎

《質問》

我が家の庭にある園芸の植木鉢の土の付近でフワフワ飛んでいる虫を見つけて触ったところ刺されて、急に気分が悪くなったので救急車を呼んで病院で手当てを受けたところハチだった。

また刺されると怖いので保健所に相談したところ、ペストコントロール協会を紹介され、協会から地元の「害虫相談所」に指定されている専門業者を紹介された。

11月末なので冬になれば自然にいない、ハチは益虫だというが心配で、できれば駆除したいので相談に乗ってほしい。

《回答》

ハチと言えばお尻に毒針を持ち、人を刺すようなイメージがあります。しかし、人を刺すのは主に「ハナバチ」(ミツバチ、クマバチ、マルハナバチなど)、「アシナガバチ」「スズメバチ」の仲間です。ハチ類のうち、女王蜂を中心に社会生活を営む種類の雌が、主に刺すと考えられます。

まずミツバチです。ミツバチはご存じの通り受粉や蜜とりの益虫で、刺されてもそれほど痛くありません。しかし毒針には釣り針のような返しトゲがあり、抜けません。ミツバチは毒針が刺さったまま尻が破れ、死んでしまいます。

壁の中に巣を作られると、蜜が流れて他の虫がたかったり、腐ったりします。壁を壊し

て巣を取るようになります。

アシナガバチやスズメバチの幼虫は肉食性で、主に蛾や蝶の幼虫を成虫がかみ砕いて団子状にして食べさせます。つまり果樹や作物にたかる毛虫や芋虫を食べてくれる益虫です。ちなみに成虫は花の蜜、熟した果物、樹液、幼虫が出す液、他の昆虫(例えばアブラムシ)が出す甘露などを餌にしています。アシナガバチは攻撃性や毒の危険性はそれほど高くないとされています。人の通路の間近に巣があるときを除いて、駆除せず様子を見る人が多いようです。

スズメバチは攻撃性が強く、巣を脅かしたときは激しく攻撃してきます。スズメバチの毒針には、ミツバチと違って返しがないので、何度も繰り返し刺します。

頭や払った手を刺されることが多く、スズメバチは、黒いもの、動くものに反応するようです。

スズメバチを駆除するときは、刺され事故を防止するため、全身のハチ防護服を着用します。刺された場合、アナフィラキシーショックという激しいアレルギーで、一時間前後で死亡することさえあります。刺されたときは、症状が激しくないときでも、できるだけ早く、医師の診察を受けるようお勧めします。具合が悪いと思いきのまま寝てしまったりするなど治療を受けないと、重症化や死亡のリスクが高いと思われます。

Aさんの場合は過去にどの種類か分かりませ

ハチは冬になると居なくなるのですか？

んが、ハチに何度か刺されたことがあるというのを後から思い出したようです。

専門技術者が現場に赴き、飛んでいる虫の形を見て、また植木鉢の土に穴が開いていてたまに出入りしていることから、クロスズメバチだろうと推定しました。

【質問者】 11月末なので冬になれば自然にいなくなるというが、本当ですか？

【回答者】 クロスズメバチの女王蜂は、晩秋に巣を出て交尾し、バーク（樹皮）の間や朽ち木の中に穴を掘って中に入って越冬し、春に新たな巣を作り、働き蜂となる卵を産み、秋には巣の内部で多数の新女王が育ち、…という1年サイクルだといわれています。

【質問者】 すると、庭中の木や穴を点検して、スズメバチが越冬している穴を見つけて、殺虫していけば翌年はハチに悩まされないで済みますか？

【回答者】 お庭に営巣したハチが、元々同じお庭で越冬していたかどうかは分かりません。緑の多い住宅地で、大きな公園も数百メートル以内にありますから、越冬時の撲滅作戦はあまり効果が無いと考えられます。また「越冬室」は穴を掘ったカスを固めて蓋がされていることもあり、分かりにくいと思います。

【質問者】 また来年も、同じところにスズメバチの巣ができる可能性がありますか？

【回答者】 「同じところ」という語の意味によりますが、同じ植木鉢に再び巣を作る可能性はあります。これは他のスズメバチでも同様で、同じ軒下、同じ壁穴、同じ戸袋という意味では再び巣を作る可能性がありま

す。

しかし、前年やそれ以前の巣にそのまま「居抜き」で入居することは無いとされています。

但し、巣の材料として再利用することは良くあるようです。冬の間放置されたスズメバチの巣が、ある日に欠けだして、間近に新しい巣が現れたという話を都民の方から聞いて、見に行ったことがあります。確かに働き蜂が古い巣を齧って往復しているように見えました。

スズメバチの巣が球形でだんだん大きくなっていきますが、これは現在の巣の外側に外皮を作り、古い内皮を内部の巣房という飼育室の増設の材料に再利用することを繰り返しているためだと考えられます。

【質問者】 ハチが嫌う薬剤とか、巣を作れなくする塗布剤とかありませんか？

【回答者】 特効的に忌避できるという薬剤を私は知りません。蚊やブユなどを避ける虫避け剤としてDEETを含む医薬部外品の市販薬がありますが、ハチには有効ではありません。

カメムシやクモのように壁面を這う虫を防虫するために、外壁面に吹きつける殺虫剤が市販されていますが、ハチ類の営巣予防効果については効能書きにあるものを私は知りません。

巣の柄が作れなければ巣ができませんので、平滑な金属やセラミックのような面であれば、シリコンやフッ素などのコーティングによって、巣の柄を作りにくくするとする塗料もあるようですし、市販の建築用防水スプレーで巣ができにくくなるという方もいますが、どれも私は効果を確認して

いません。

市販のハチ駆除スプレー殺虫剤の中には、スズメバチ・アシナガバチの巣作り予防効果も謳うものがあり、2週間おきにたっぷり塗布すれば効果が見られるとするものがありました。風雨や日照などに薬剤の効力が影響されますので、こまめな補修噴霧が必要ということです。

【質問者】ミツバチも女王蜂が越冬するのですか？

【回答者】養蜂業者のホームページなどを見ていただくと分かるように、巣ごと越冬します。但し昆虫類は変温動物で体温を自ら調整する能力が低く、単体では低気温だと体温も下がり、外部での活動が著しく鈍りますし、花の蜜も少ないので、巣としての活動も大幅に縮小されます。ミツバチの巣内温度は35℃前後が最適で、多数の蜂が団子状に集まって最適温度を保つとされています。

【質問者】スズメバチの駆除は夜にやった方がよいというのは本当ですか？

【回答者】日中に巣外で活動していた殆どの蜂が、気温低下や日照不足などによって巣に

戻り、巣全体の活動も低下する夜間(日没後)に一網打尽にハチ類の巣を駆除するのが合理的なのは確かですね。

夏場は巣を除去しても、同じ場所に大量の働き蜂がきて短期間に巣を再生してしまうため、巣に未帰還の戻り蜂が巣を再生したように見えることがあります。これはたまたま巣分け(引越)期間中の新しい巣だけを駆除したため、旧い巣から働き蜂が大量動員され、新しい巣が再構築されてしまったものと考えられます。引越は夏場の1～2ヶ月にキイロスズメバチなどで見られるということです。

新しい工事中の巣には昼間は数十匹が球のように群がって巣作りし、相当数が周囲を飛び回っていますが、夜は多くても数匹が残っているだけで、元の巣に帰っています。

また相当大きくなっても、旧い巣に本拠がある限り何度夜間に駆除しても再生されたり、直近に複数の巣ができてしまうこともあります。1棟に6個の巣があり、全て駆除したところ、3日後に1個、さらに7日後に1個、巣が作られたことがありました。